

したたり落ちる時間

text by Shinji Ishii
文いししんじ

大きすぎず、小さすぎもしない音量で、ポップ・ディランの音が歌っている。畳の部屋。高い天井。低いテーブルにむかつてすわり、何心なく書棚をながめる。

「日本の放浪芸」

「サバンの手帖」

「イエメンで鮭釣りを」

「古代海人の世界」

音楽、映画、外国にまつわる本が整然とならぶ。ヘミングウェイ、司馬遼太郎、ジェイムズ・ジョイスらの小説も。

「いらっしやいませ」

店主がテーブルの上にひらりとメニューを置く。自家製ネルドリップコーヒー。キューバ、コロンビア、ブラジル、エチオピア。くわえて、ハワイのコナビール、アイルランドのギネスビール、スコットランドのブラックアイル、イギリスのサミエルスミス。

おや、と、つい目をひかれる。クリームソーダ。

ひやしあめ（マルキ商店製）。つまりここは京都だ。

店の名はHi-Fi Cafe。音楽は、おそらくハワイの若いミュージシャンに変わっている。ウクレレの風に乗って裏声がなびいてくる。

京都は喫茶の町。奥さんも商人も学生も、観光客や外国人までも、それぞれに、いきつけの喫茶店をもっている。コーヒー、濃茶に薄茶、玉露に番茶。ビールのときもあるだろう。みな席で足をのぼし、ふう、と吐息をつきながら飲み物をすすする。

「くせのある、コーヒー一杯」

と僕は注文する。

畳敷きの店内には、しょっちゅう顔をみる常連客、なにか書き物をしている男性客、文庫本をひらいている女性客。ここでは時間は「流れる」というより「したたる」。店主の吉川さんは、コーヒー一杯淹れるのに、正味十五分かける。四杯の注文があったら、文字通り一杯ずつ、都

合六十分。

常連はみんな知っているし、はじめての客も、空気の流れかたですぐにそうと察する。

Hi-Fi Cafeの時間は、ネル布から黒い雫が一滴、また一滴、したたり落ちる、その速度ですすむ。ここではコーヒーが時計なのだ。

書棚にくわえ、目をひくのが、レコードの棚。アメリカのベンチャーーズ、ポルトガルのアマリア・ロドリゲス、ブラジルのアストラッド・ジルベル

喫茶店以上のなにかのかもしれない。

「お待たせしました」

と吉川さんが、淹れたての黒い雫をたたえたカップとソーサーを、まるで時間をそこに置くような手つきで、テーブルにのせる。

「キューバの、深煎りです」

その瞬間、音楽は、プエナ・ビスタ・ソシアル・クラブに変わる。僕の間にはいま、深い旅の最中にある。

ト。「ピング・クロスビー、ハワイの歌をうたう」。四〇〇枚のLPが、棚のなかで息をひそめ、いまかいまかと、針が乗せられる瞬間を待ちかまえている。

棚の上には、タイプライターと蓄音機。そう、音楽も、この店の時計のひとつ。何分何秒と、数字でははかれない、自由にのびちみする時間を、レコードはつくりだす。

雪見障子からのぞく、京町家の坪庭。石灯籠とモミジ。男性客が立ちあがり、小声で勘定を払い、靴をはく。表に出ていくまで、細長い路地をとおりにぬけていく。

本のページをめくると同じ速さ。レコードの回転。コーヒーの雫の飾色のしたたり。Hi-Fi Cafeは、一見喫茶店なので、コーヒーの店だと思われがちだが、ほんとうは、時間を味わいにくる場所にはかならない。東京や大阪など大都会はむろんのこと、昨今は京都までも、文字盤や液晶画面に追いついてられ、暮らすようになってしまった。ほんらいは、特別な時間を過ごせるはずの旅行さえ、あらかじめ予定を決めておかなければ、楽しいないひとのほうが増えた。

仕事やデートの約束は、それはひととつきあいだから、時計の時間は大切だ。けれど、たったひとりで、自分



面積: 827.83km²
総人口: 1,474,735人(2016年10月1日)
人口密度: 1,780人/km²
市の木: シダレヤナギ、タカオカエデ、カツラ
市の花: ツバキ、ツツジ、サトザクラ
自治記念日: 10月15日



Profile
1966年大阪生まれ。京都在住。著書に小説「ぶらんこ乗り」「麦ふみクーツェ」「ポーの話」「みずうみ」「四とそれ以上の国」など、エッセイ「人生を救え!」(町田康共著)「熊にみえて熊じゃない」「遠い足の話」、絵本に「赤ずきん」(ほしよりこ絵)など多数。

